

◀ クリックすると次の頁にジャンプします。

相原茂  
著

# あ、知ってる中国語

常用文ファイル  
50

〈後記全文〉

東方書店

## 後記

「基本単語」あるいは「基本語」という考え方があ  
る。重要な単語、よく使う単語をきちんとマスターし  
ようということだろう。

それならば「基本文」という考え方があってもよ  
い。重要な文、よく使う文をきちんとマスターしよ  
うというのである。

日本語でもそうだが、「ありがとう」とか「すみ  
ません」「こんにちは」というような、よく使う  
言葉ほど、奥行きが深く、用途もひろい。そこ  
にはその民族の考え方すら反映されている。

そういう誰もが知っている、身近な基本常用  
文について、たちどまつて考え、改めてしげし  
げと眺めてみた。

本書は雑誌『中国語』（内山書店）に「中国  
語常用文ファイル」というタイトルで一九九  
五年九月から二〇〇〇年五月まで連載した  
ものの中から五十編を選びだして編んだもの  
である。連載を勧められ、また転載を承諾  
していた「中国語友の会」に感謝したい。

毎月の執筆は苦しくもあり、楽しくもあ  
った。月末近くになると、電話をかけやす  
い身近な中国人をよく煩わせた。それは主  
に、郭雲輝、田禾、陳淑梅のみなさんであ  
る。改めてお詫びとお礼を申し上げたい。一  
書にまとめるにあたっては、これも友人の  
彭広隆（北京大學）氏に過目していただいた。  
彭氏をはじめ、これらの方々からの多く  
の貴重

▶ トップページにもどる

な意見を吸収して本書ができてい  
ることは言うまでもない。表紙の猫は  
もりわじんさんの作品である。好き  
なオブリエで表紙をかざるにあた  
つては東方書店にわがままを言  
い、装順の堀博さんには無理な  
お願いをした。

北京在住の十数年來の友人、中央美術  
学院教授で版画家の広軍氏、北京服  
飾学院教授で画家の郎森氏の両名は、  
ほかならぬ相原の頼みということで、  
忙しい芸術活動の合間をみて、挿  
し絵を描いてくれた。それも短期日  
のうち五十枚も仕上げてもらった。

本書の企画から完成まで、前著『中  
国語の学び方』に続き、今回も東  
方書店編集部の三澤もり絵さんが  
当たられ、内容にふさわしい器を  
つくっていただいた。

いつも多くの人々の力に支えられ  
て何程かの仕事ができあがる。あ  
りがたいことだと思わずにはいら  
れない。

二〇〇〇年秋

相原茂